

稲・大豆作情報 (NO. 6)

1. 水稲作況情報田の生育概況 (8月4日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況				概況
			草 丈 c m	茎 数 本/m ²	主 稈 出葉数	葉 色 SPAD	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 18.5株/m ²	本 年	87.1	311	12.3	37.0	7月6半旬は高温(+1.9℃)で、日照時間は多く(111%)、降水量は少ない(1%) ◇平年と比べ、 草丈：すべての品種で平年並み。 茎数：「夢しずく」「さがびより」は少なく、「ヒヨクモチ」は多い。 主稈出葉数：すべての品種やや遅れている。 葉色：「夢しずく」「ヒヨクモチ」はやや淡く、「さがびより」は濃い ★「夢しずく」は、幼穂長15～30mmとなっている。
		平 年	86.9	374	12.5	37.6	
		平年比	(100)	(83)	(-0.2)	(-0.6)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 16.7株/m ²	本 年	74.9	374	12.0	40.6	
		平 年	75.4	470	12.8	38.4	
		平年比	(99)	(80)	(-0.8)	(2.2)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	6/28 19.6株/m ²	本 年	60.4	724	11.8	41.1	
		平 年 平	58.1	635	12.6	41.6	
		年 比	(104)	(114)	(-0.8)	(-0.5)	

注1) 各品種 前作：麦 注2) 施肥及び病害虫防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H24～R3)の平均値

◆農業試験研究センター米づくり情報6号 8月3日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本/m ²	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年と比較して)
6月17日	夢しずく	本 年	85.0	317	13.0	40.4	[気象] 7月29日～8月4日まで ◆平均気温…平年より2.1℃高い ◆日照時間…長い(平年比117%) ◆降水量…少ない(平年比6%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」でやや高く、「ヒノヒカリ」で平年並み、「さがびより」「ヒヨクモチ」で高い。 ◆茎数 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「さがびより」では少ない、「ヒヨクモチ」では多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「さがびより」でやや進んでおり、「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」では平年並みである。 ◆葉色 「夢しずく」ではやや濃く、「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」では濃い。
		平 年	82.8	413	12.5	39.3	
		平年比(差)	103	77	+0.5	+1.1	
	ヒノヒカリ	本 年	74.5	404	12.3	40.2	
		平 年	75.0	513	12.4	37.2	
		平年比(差)	99	79	-0.1	+3.0	
6月20日	さがびより	本 年	76.7	425	12.7	41.7	
		平 年	71.9	523	12.5	38.0	
		平年比(差)	107	81	+0.2	+3.7	
	ヒヨクモチ	本 年	74.9	812	12.9	41.4	
		平 年	65.9	734	13.0	38.6	
		平年比(差)	114	111	-0.1	+2.8	

注1) 耕起概要等は前号参照。

○生育概況

「夢しずく」「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」は先週よりやや生育のスピードが速まっている。6月末～7月前半の高温で、有機物の分解が急速に進んだと考えられ、還元化により、早生、中生品種では茎数が平年より少ない状況が続いている。「夢しずく」は、5/下旬移植で穂ぞろい期、6/中旬移植でお盆すぎの出穂見込みである(情報田)。

2. 水稲管理

**生育ステージに応じ、適正水管理・穂肥・病虫害防除を行う。
また穂肥については診断基準に従い、時機を失しないように施用する。**

○水管理

- ・「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」は、幼穂形成期～穂孕み期～出穂期に達しているため、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を励行し、湿润（黒乾）状態を保つ。
- ・中干し圃場で、高温と乾燥により白乾状態となっている圃場は、そのまま一気に水を溜めると根の活力が低下し、下葉枯れを助長するため、まず走り水を行い、その後は間断灌水とする。

○穂肥 ～ 散布時は入水し、湛水状態で施用 ～

夢しずく【平坦部での穂肥診断基準】

- ・穂孕み期～出穂期頃は要水量が最も多くなるため、灌水の期間をやや長めとした間断灌水を心がける。

ヒノヒカリ

- ・現在、穂肥施用時期を迎えているため、診断に基づき穂肥を施用する。

幼穂形成始期の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
80cm以下	3.0以下	34以下	20～24日	1～2mm	3.0	18.8
	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	3.0	18.8
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	2.0	12.5
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下
80cm以上	3.0～3.3	35～38	18～20日	3～5mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	39～40	16～18日	5～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	41以上	—	15～30mm	1.0以下	6.3以下

さがびより

- ・現在、幼穂長0.5mm程度。**8月中旬**に穂肥施用になると思われる。
- ・施用時期は、幼穂長5～10mmが基準。5mmに達したのを確認し施用する。

「さがびより」の生育ステージ		←--- 穂肥時期の目安 ---→										
出穂前日数	-25	-24	-23	-22	-21	-20	-19	-18	-17	-16	-15	出穂期
幼穂形成始期及び幼穂形成始期からの日数		★	★				4日後	6日後	1週間			
幼穂長			1mm		2mm	5mm	10mm	15mm	20mm			
標準的な草丈(cm)		72～75				※ 草丈の指標は、1cm/2日減じて使用する						
備考						適期						

注1) 「★」印は、幼穂形成始期を示す

★新基準 H29～（平坦部）★ さがびより診断基準

幼穂形成始期（幼穂長1mm）の草丈	葉色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
80cm以下	3.5以下	38以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.7	38～40	18日	10mm	2.0	12.5
	3.8	40～41	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	42以上	施用しない			
80cm以上	3.8以下	39以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.8以上	40以上	施用しない			

さがびより旧診断基準 (※平坦上部～山麓地域参考)

幼穂形成始期 (幼穂長1mm) の草丈	葉 色		施用時期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 (kg/10a)	BB602 (kg/10a)
75cm以下	2.5以下	33以下	18～20日	5mm	2.5	15.6
	3.0	33～37	18日	10mm	2.0	12.5
	3.5	37～38	16日	15mm	1.0	6.3
	3.8以上	39以上	施用しない			
75～80cm	3.0以下	36以下	16～18日	10～15mm	1.5	9.4
	3.0以上	37以上	施用しない			
80cm以上	施用しない					

ヒヨクモチ

- ・現在、最高分けつ期を迎えている。
- ・間断灌水に移行し、幼穂形成期までに軽めの中干し(小さなヒビが入る程度)を行う。

○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年のトビイロウンカは、現在のところ6/25、7/8、7/19の飛来が確認されている。
- ・8/4の調査において、平坦部の一部圃場でウンカ類の幼虫0.3～0.7頭/株が確認されている。
移植時期や品種によっては、より多く発生している可能性があり、さらに今年は高温少雨で経過しているため、トビイロウンカが急増する場合もある。
今後もそれぞれで発生状況を確認し、適期適正防除に努める。
- ・防除効果が高い時期は、幼虫ふ化揃い期(各幼虫期の前半(図中★))である。
有効薬剤：スタークル・エクシード・エミリア など

発生予測図は気象をもとに随時更新され、変更される場合があるため、以下に示すホームページで最新情報を定期的に確認し、防除の参考にしてください。

<http://www.pref.saga.lg.jp/kiji00368010/index.html>

- ・病害虫発生予察情報予報第4号(7/27発表)では、8月は以下の予報が出ているため、今後も発生状況に留意し、適切な管理を行う。

早植及び普通期水稻 やや多・・・ 紋枯病、トビイロウンカ、斑点米カメムシ



図1 トビイロウンカ各世代の発生予測(第3版、2022年7月20日作成)

防除する場合は湛水するとともに、薬剤が株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

3. 大豆管理 ～ 生育に応じた適正管理を ～

○生育状況

6月下旬～7月初旬播種	本葉 5～8 枚
7月上中旬播種	本葉 3～7 葉
7月中旬以降	初生葉～本葉 1 枚

※同じ播種時期でも、土壤水分の有無や降雨の有無で生育は異なる。

○培土

・出芽した大豆は、以下の目安を参考に、雑草防除や生育確保のため、培土を実施する。

○実施時期の目安

- 1回目：本葉2～3枚の頃、子葉が隠れる程度におこなう。
- 2回目：本葉4～5枚時に、初生葉（子葉の上の葉）まで隠れるようにおこなう。



※降雨が少なく、今年も“干ばつ”傾向で推移している。

培土は、大豆栽培のうえで重要な作業の一つであるが、気温が高い日中の作業は土壤水分の蒸散を助長するため、作業は夕方以降が望ましい。

○雑草対策

- ・イネ科雑草が多いところでは、ポルトフロアブル、ナブ乳剤等で防除する。
- ・カヤツリグサ科が多い場合は、大豆バサグラン等で防除する。
- ・アサガオ類やホオズキは、繁殖力が強く、放置すると次年度以降の発生量が多くなるため、圃場内はもとよりまくら地や畦で発生している場合は、必ず抜き取り圃場外へ持ち出すか薬剤散布での防除を徹底する。

○病害虫対策

- ・一部の圃場でハスモンヨトウが確認されており、今後ハスモンヨトウの食害による白変葉やその他害虫による食害が発生する可能性がある。
葉に大きな穴が開いた株が目立ち周辺に青虫がいる場合は、オオタバコガによる食害の可能性が高く、稀にシロイチモジヨトウが含まれる場合もある。
防除は、オオタバコガが主流であればプレバゾン、ペガサス、シロイチモジヨトウの場合はプレオが効果的。
ノーモルト、トレボン感受性が低いいため、使用を避ける。
また防除にあたっては周辺作物へのドリフトに注意し実施する。



(写真) オオタバコガの食害

令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

